

幹線ネットワーク計画

道路計画策定
(ルート・車線数等)

事業評価

個別事業評価
(新規・再評価)

渋滞対策

主要渋滞箇所・ピンポイント渋滞対策の特定

交通安全

潜在的危険箇所・交通安全対策

拠点整備 交通マネジメント

人の効率的な移動動線を踏まえた施設設計

現在の
利用可能
なデータ

●**道路交通センサス(OD調査)**
:日本全国の道路交通の実態を把握(5年周期)
簡易調査票(約76.1万台) 詳細調査票(約29.5万台)

将来交通需要推計(人口やGDP等を説明変数として推計)

●**トラカン交通量**

●**交通事故データ(ITARDA)**

●**パーソントリップ調査(概ね10年周期)**
:各都市圏における人の移動実態を把握

●**幹線旅客純流動調査(概ね5年周期)**
:幹線交通機関における旅客流動の実態を把握

●**ETC2.0プローブ(旅行速度、走行経路、急ブレーキ箇所)**

●**道路交通センサス(交通量調査)**
:一般都道府県道以上の全道路及び政令市の一般市道の一部を対象に交通量を把握(5年周期)

●**個別調査**:必要に応じ、特定の箇所や時期に道路交通データ(交通量等)を収集

活用上の
課題

大規模調査に要するコスト・効率的データ収集に課題

災害時も含めた交通状況のリアルタイム把握に課題

他モードとのデータ連携に課題

2020年度調査を通じた効率化の推進

●ETC2.0プローブを活用したOD調査の効率化
●多様なICTを活用した交通量観測の効率化

産学官連携によるデータ連携方策の検討・民間新技術の利活用

●モバイルビッグデータの活用(携帯電話基地局、GPSデータ、Wi-Fiデータ等)
●カメラの活用(人や自転車の動きの把握)

新たな
調査体系の
方向性

常時観測体制への完全移行

人とクルマの動きの同時把握

平常時・災害時を問わない円滑な交通の確保

多様な評価指標による整備効果評価

リアルタイムデータに基づく速攻対策

人の動きを踏まえた安全な生活空間

効率的かつ円滑な移動の実現